

鶴歩橋

橋梁形式：一径間ワーレン鋼構橋

架設年次：昭和3年7月

所在地：江東区冬木から

木場三丁目間平久川に架かる

橋長：39.8m

幅員：13.4m

橋名由来：平野町の開拓をした名主の子息である甚四郎忠重がこの地を俳号の「鶴歩」から鶴歩町としたので、橋もこの町名をとった。



現在の様子



現在の様子



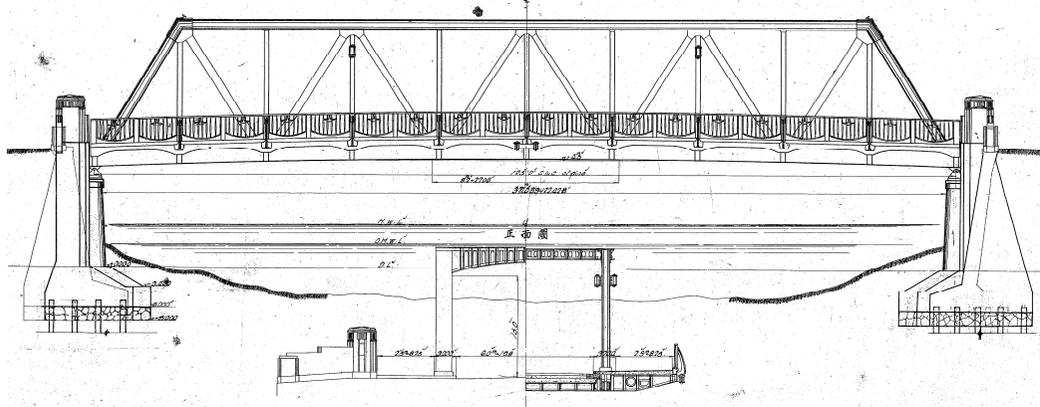
昭和57年撮影

鶴歩橋は、大正12年に発生した関東大震災の復興事業の一環として架けられた「震災復興橋梁」の一つです。

トラスとは、まっすぐな直線部材で構成された骨組構造で、主構造にトラスを用いた橋梁をトラス橋と呼びます。

ワーレントラス（トラス=構）は、トラスの一種で、斜材の傾斜の方向を交互に変えたトラスのことです。James Warrenが発案したことから、この名称で呼ばれています。

側面図



鶴歩橋の景観について

鶴歩橋には鶴をモチーフにした親柱が設置されています。



説明板設置工事について

令和5年に関東大震災から100年を迎えるにあたり、過去の記憶や震災復興橋梁の歴史を広く区民に継承し、防災意識の啓発を図るために震災復興橋梁の説明看板を設置しました。

